

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017401300		
法人名	有限会社ハマダコーポレーション		
事業所名	グループホーム おもひで		
所在地	函館市東山3丁目2-4		
自己評価作成日	平成25年12月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家改修型ホームで、純和風住宅でインテリアに欄間を使い、昔懐かしい雰囲気を残し、家庭的な環境を壊さないようにしている。純和風の大きな中庭は、四季により様々な景色を楽しむことができる。日頃から、外出の機会を多く持ち、季節を感じてもらえるよう、季節ごとの行事や食事作りに力を入れ、ご家族様にも行事に参加してもらい、入居者様、ご家族様、職員と深いつながりが持てるよう日頃から努めている。地域の行事にも参加させてもらい、積極的に地域の方との交流も深めている。適宜開催しているカンファレンスや会議では、ご家族様、職員の意見や要望を聞き、理念を共有し、職員の思いを一つにしてケアの質の向上と運営に反映させている。また、ケアプランの実行内容を、毎日の業務日誌、個人記録に記録し、報告、確認し、プランの目標達成に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171401300-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成26年2月17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市内幹線道路から一本入った閑静な住宅街に面している。建物は大きな平屋を改修したもので、中庭がある造りとなっている。中庭には、灯籠や庭石等があり、夏場には屋根つきのウッドデッキから、冬にも事業所内の大きな窓から眺めるなど、季節を感じることができる。この事業所の優れている点は、事業所理念は開設当初より変更せずに、職員の個人目標を設定し、その目標が理念に連動して作られているところである。個人の目標は様々であるが、どれも事業所の理念に連動していることで、職員同士の一体感の共有にもつながっている。また、ケアにおける言葉遣いでも職員間で指摘し合える関係づくりが出来ており、利用者が安心してできるケアに繋がっていることから、この個人目標が有効に機能している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関や居間、事務室等の目の触れる所に掲示し、毎日、職員で理念を唱和し、思いを一つにして実践に繋げている。職員間でも、お互いに声を掛けあい、理念に沿った「その人らしさ」を支えられるよう関わっている。	開設当初からの理念を着実に守り、実行し、理念に沿った実践に取り組んでいる。また2年程前から、新たに理念に沿った個人目標を職員それぞれが定め、居間に掲示して日々研鑽を積んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し、夏祭りや餅つき、クリーン作戦等の町会行事に参加したり、回覧板を入居者様と一緒に回したりしている。避難訓練には、町会の方にも参加して頂き、庭で取れた蕎麦を近所の方にお配りするなど、地域近隣の方と交流をはかっている。	近隣や町内会の行事にも積極的に参加しており、町内会の夏祭り際には子供との交流も図っている。町内会長もよく利用者のことを把握し、地域密着型の事業所としての機能を十分有している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	北海道認知症地域コーディネーター養成講座を修了した職員が中心となり、認知症に悩む方々への認知症介護のアドバイスをしたり、相談も随時受け付けている。また、町会行事に参加した際等、地域の方から介護保険や認知症について等相談を受ける事がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催しており、意見や要望をお聞きし、サービスの向上を目的とした意見交換を行い、会議での意見は職員間で共有し、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は町内の会館を利用し、参加者が集まりやすい工夫をしている。課題として議題に上がったものについては、次の会議までには、必ず対応し、状況の報告をしている。	欠席した家族には会議録を送るか、内容をお便りに記載するなど、会議内容が伝わる仕組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括支援センターへ、推進会議議事録を郵送やメールではなく、直接お届けし定期的に会う機会を設け、相談しアドバイスをもらったり、情報を得るなどし、より積極的な関係を築けるよう努めている。	市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に欠席した場合は、会議録を直接持参している。また、地域包括支援センター職員からは情報の提供など、良好な関係を築いている。生活保護受給者には市のケースワーカーとも連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングの際に、転倒などのリスクに対して介護上の工夫を話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。精神面でも、ケアの中での言葉遣いなど職員間でお互いを注意しあっている。	身体拘束についてのマニュアルが整備され、研修会に参加した場合は、職員同士で共有している。「ちょっとまって」、「～なさい」というようなケアの中での言葉遣いをしないように留意しており、職員間で指摘しあえる関係である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待予防に関する研修会、勉強会に参加し、日頃より言葉遣いにも心掛け、ミーティングの際に討議し環境を作らないよう努めている。職員同士で入居者様の身体及び精神状態のわずかな変化にも気付けるよう、細かな観察を実施し、すぐに話し合う機会を持ち防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている入居者様はいないが、成年後見制度の勉強会等へ参加し、各自、学ぶ姿勢で制度を理解し、必要時、支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をかけサービス内容等説明し、その都度、疑問点などないか確認している。改定時も、文書で説明し了承を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に意見交流できるよう日頃よりコミュニケーションをとり、気軽に言ってもらえるよう雰囲気作りに配慮し、ご家族様との信頼関係の構築に努め、意見や要望をお聞きし運営に反映させている。玄関には、意見箱も設置し、無記名で書いてもらえるようにしている。	玄関に意見箱を設置しているが、意見は多くない状況であることから、今年家族に対してのアンケートを実施する予定で、現在調査項目等の検討を進めている。	アンケートの実施により、多くの家族から意見を吸い上げるシステムを確立し、職員皆の意見が反映されたアンケートの実施を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議以外でも、運営に関しての意見や提案をしやすい雰囲気を作り、管理者が意見をまとめて運営者に伝えている。個人面談を行い職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	1年に1度、常務取締役が面談を実施して、職員の提案にできるだけ対応している。職員の増員や備品の設置等が面談によって実現している。また職員のスキルアップのため、介護福祉士模擬試験やスウェーデン発祥のケアで、手で触れる心地よさや安心感をもたらすタクティールケア研修への受講にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	連休や希望休を取ってもらい、勤務時間内に業務が終えられるよう業務を改善したり、話し合いの場を設けている。勤務状況を把握し、夜勤手当を引き上げる等、考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて研修会に参加してもらい、受講後は、報告してもらい、職員で共有し、職員の意識向上や技術向上に努めている。研修会等には、勤務時間内に参加できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、勉強会やブロック会議などで交流があり、研修への参加も多いので、意見交換や交流を深められ、サービスの質の向上に繋がっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、ホームに来院してもらい、居室や雰囲気を見てもらい、管理者が訪問に伺い、ご本人様・ご家族様と良く話し合う機会を設け、入居前の不安が解消されるよう努め、入居後、安心して過ごして頂けるよう要望など、細かく情報収集し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、ご本人様と一緒に来院して頂いたり、管理者の自宅訪問時に立ち会ってもらい、要望など細かく情報収集し、話し合う機会を設け、解消できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と事前に話し合い、情報確認し、他サービス事業所や医療機関に問い合わせながら、最適なサービスが受けられるよう努めている。意見・要望を聞き、より良いケアが出来るようカンファレンスを開催している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ること、支援すると出来ることを大切に、小さなことでも役割を持って頂き、入居者様にこれは私の役割と思ってもらえるよう係わり、家事等を一緒に行ったりし共に過ごし、良い関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、ご家族様への報告やご家族様からの相談に耳を傾け、情報を共有し絆を大切にしてもらえるよう配慮している。時には、入居者様に安心してもらえるよう声かけをもらったりし、職員と共に入居者様を支えてもらっている。行事にも多く参加してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの習い事、病院などへ継続して通えるよう支援している。ご家族様以外の知人や友人の面会もあり、友人同士で食事に行かれたり、いつでも外出していただき、馴染みの方との関係が継続されるよう支援している。	入居前から継続している太極拳や写真展覧会への参加は家族が対応しているが、家族の送迎が難しい場合は、職員が対応している。また、手紙が来た場合は内容を伝えたり、返事を代筆するなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の相互関係に配慮し、性格等も把握し、職員が間に入り、良い関係作りが出来るよう支援し、お互いが不快な思いをしないよう係わっている。一緒に家事をしてもらったり、出来ないことを支え合ったり、入居者様同士も助け合い、協力し過ぎされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等にて退去した入居者様とも、ご家族様の許可を得て、面会に行ったり、寄せ書きやアルバムを送ったりし、それまでの関係を断ち切らず、今後のことをお話ししたり関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	動作や表情から思いをくみ取り、ご家族様からも希望や意見をお聞きし、カンファレンス以外でも、その方の立場になってスタッフ、ご家族様と相談や話し合いをし、寄り添えるよう努めている。	一人ひとりの表情から行動を予測できるように、職員同士で情報を共有している。在宅からの入居者が多いので、家族とは事前に十分なアセスメントを実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人・ご家族様に生活歴等お聞きし、入居後も、生活が大きく変わらないよう、今までの生活が継続できるよう細かな情報収集に努め、一人ひとりの暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	理念にも掲げている「人格を尊重」し、出来る事はご自分でして頂き、出来る事・出来ないことを把握できるよう、細かく観察し記録に残し、職員間の情報を密に、出来ないこと・介助が必要な事を援助している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の生活状況を日誌に記録し、申し送りしている。アセスメントを取り、入居者様・ご家族様の意見や要望をお聞きし、ご本人の現状に合った介護計画を作成し、状態変化のあった時は見直しをしている。日誌には、介護計画実施状況を毎日記録し、目標達成に取り組んでいる。	家族の意見や主治医の意見が反映された介護計画が作られている。また業務日誌は介護計画が反映されたものとなっており、常に介護計画の目標達成を意識して取り組む姿勢がとられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日常生活の様子を記入し、ケアプランの記入欄もあるので、実践結果・気づきを記入し、介護計画の実践や見直しに活かし、職員間で情報を共有している。気付いたことは申し送りし、都度話し合いの場を設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医受診や買い物等、ご家族様が困難な時、事業所が変わって支援している。希望や必要性のあった時は、柔軟に対応し、すぐに対応出来ない時は、話し合いをし支援できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等で外出する際は、事前に連絡し協力と理解を得て頂き、食事等に出かけている。町内会のお祭りや餅つきでは、踊りや餅つき、餅作りなど、得意な事、興味のあることに参加して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族様の希望するかかりつけ医への受診支援の他、医療連携している主治医の往診も行っている。24時間体制で診てもらっており、緊急時や夜間の体制も整えており、安心できる医療の提供に努めている。	往診が隔週で実施されており、24時間体制で医療連携が確保されている。入居者が希望するかかりつけ医への受診についても家族の送迎が難しい場合は、職員が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携している病院の看護師による訪問看護日に、医療相談や細かな変化でも状態を伝え、処置してもらったりアドバイス・指示をもらい、重症化しないよう支援している。写真に残し、変化や経過も診てもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関に入院する際は、必ず職員も付き添い情報提供し、今後の方針等、医師や他職員と相談している。また、定期的に医療機関と連絡をとり、お見舞いに伺った際には、看護師より状態報告してもらったりし、今後の方向性を相談員と話し合うなど、積極的に関係を築くようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の事柄について、重度化・看取りに関する方針をご家族様へ説明し、出来る事・出来ないことを明確にし、十分な話し合いの機会を持っている。出来る限り、ご家族様の意向に沿えるよう、主治医と連携をとり、職員で方針を共有し対応している。	看取り指針を作成し、入居時には同意を得ているが、終末期支援の際に再度同意をいただくようになっている。また、主治医との連携もできており、これまで3人の看取り支援を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応のマニュアルを見やすい場所に掲示して、全職員が周知している。急変や事故発生時は、主治医や看護師より、アドバイス・指示をもらい実践力に繋げている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いで、夜間想定を含めた避難訓練を実施し、地域の方やご家族様にも参加してもらい、災害時、協力を得られる体制がある。道南GH協Bブロックでも、災害時の協力体制が出来ている。スプリンクラー設置対象外だが設置している。	避難訓練は家族にも参加をいただいている。スプリンクラーを設置し、災害備蓄についても、水、食料、毛布、ガスボンベ等を準備している。また、使用期限が近くなれば交換するなど、体制を整えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念でもある「その人の人格を尊重しその人らしさを支える」よう、言葉使いの大切さを学び、言葉遣いや態度に関して職員間で注意し気付き合うようにしている。排泄は、暗号を使いプライバシーに配慮している。	浴室の入口にカーテンで目隠しをして、自尊心を傷つけないケアを心がけている。排泄は1, 2, 3と暗号化するなどプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時等、数種のメニューを用意し決めてもらったり、希望や意見を尊重し、自己決定してもらえよう働きかけ、気持ちを引出せるよう、待つ姿勢を大切にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一方的な支援にならないよう、会話や表情等から思いをくみ取り、その日の体調にも配慮し一日を過ごしてもらっている。季節ごとの花見やドライブ、買い物等、入居者様の希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時、服装を選んでもらっている。入居者様の希望や生活背景を理解し、季節や気温、好みに配慮しおしゃれを楽しんでもらえるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来る事、得意な事を食事作りの各段階(食材選びや調理、盛り付け、片付け等)でして頂き、旬の食材や好みの物を提供し、外食や出前を取るなど楽しく食事を摂ってもらえるよう努めている。	利用者とともに買物や食事の盛り付けをしている。また長時間の立位が難しい場合は座って調理する等、無理なく関わっている。また食事の時間帯も本人の希望時間に合わせて、個別の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録し、特に目立った減量時は、主治医に診てもらい状態により高栄養ドリンクの指示がある。食事時間や形態に拘らず、その方が一番食事が進む時間に提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員は理解し、毎食後、口腔ケアを行っている。その方に合った歯科用品を使い、口腔内異常や義歯不具合時は、歯科往診してもらっている。歯科衛生士の職員がおり、職員にケアの仕方等指導している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレサインを見逃さずトイレ誘導し、汚染を少なく、トイレでの排泄を促し、オムツ用品の使用を少なく出来るよう力を入れ支援している。	水分量と排泄状況を記載し、排泄チェック表を作成している。自立排泄へ移行した利用者もあり、一人ひとりの表情を読み取り支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄介助時の腹部マッサージやオリゴ糖、乳酸飲料、食物繊維を多く含む食材の提供をし、午前、午後の皆の体操で体を動かし、薬に頼らない排泄を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	同性介護希望の方には、同性職員で入浴出来るよう配慮し、入浴を好まない方にも、お好きな音楽を流し雰囲気作りから始め、体調にも合わせた時間帯で入浴し、心地よく入浴できるよう心掛けて支援している。	2年前に浴室を滑りにくい床に変更し、暖房設備も設置したため、暖かく快適な入浴ができる。入浴拒否が強い方が入浴したい時にすぐに入浴できるように、毎日入浴できる体制を整えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じた室温や加湿に配慮し、一人一人の睡眠状態を把握し休んでもらっている。疲労や体調に合わせて、臥床、休息できるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬情報を挟み、内服変更等あった時は、都度、交換しスタッフは常に目を通し、確認、把握するよう努めている。薬変更時は、症状や状態を観察し、Drと連携をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事など出来る事、得意な事を発揮できる場を設け、生活に張りを持ってもらっている。入居前からの習い事を続ける方もおり、アルコールや買い物、外出などで気分転換出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や通院等、個々に合わせた外出支援をし、季節ごとの花見や祭り、ドライブなど、季節を楽しんでもらえるよう支援している。地域のイベントにも参加させてもらい、回覧板を一緒に届けに行くなど、地域の方にも理解と協力を得られるよう取り組んでいる。	花見、紅葉、クリスマスイルミネーション見物等外出の機会を多く確保し、ほぼ全員が参加している。日常的な散歩の機会においては、地域の方々が気さくに声をかけてくれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額をご本人に持って頂き、高額は金庫でお預かりし、外出時、お財布を持ってもらい、会計時に職員が付き添い支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様から手紙や荷物が届いた時、お礼の電話をしたり、ご家族様に、電話をしたい、声が聞きたい時は、電話をしお話ししてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくりカレンダーで日にちを確認してもらったり、居間の大きな窓から中庭を見て季節を感じてもらったり、壁には、季節ごとの飾りつけをし、入居者様が穏やかに過ごせる空間づくりに配慮している。	民家を改修した造りのホームのため、昔ながらの家具を利用し穏やかに過ごせる環境になっている。共用空間にはお雛様を飾るなど、季節感が表れる工夫がされている。中庭を見物するための屋根つきのウッドデッキも設置されており、夏は憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日当たりのいい場所にベンチを置き、入居者様同士、会話を楽しんでもらったり、気の合う方同士で、好きな音楽を聞きながら過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使用されていたタンスや家具、使い慣れた物やお好きな小物を使用して頂き、家族写真や思い出の品を飾るなどして、自室として居心地良く安心して過ごせる居室になるよう配慮している。	どの居室も日当たりがよく、家族の写真や趣味の風景写真が飾られるなど、自由な雰囲気であり、安心してその人らしく過ごせる配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人の出来る事を見極め、見守りながら家事などスタッフと一緒にして頂いている。居室やトイレには表札をおき分かりやすくし、共有場所には、各箇所に手すりを設置し、安全に立ち上がりや歩行が出来るよう配慮し、見守っている。		